



森林レンジャーあきる野新聞

Vol.25

2012年7月号

発行：森林レンジャーあきる野

あきる野市の自然を次世代へ「自然を昔に戻す会」の活動紹介



竹酢液が野生動物に効果があることを知っていますか？穴を開けたペットボトルに水で100倍に薄めた液を入れ、トウモロコシ畑に吊るしておく、ハクビシンの被害が減ったという話…戻す会の活動をお手伝いした時に聞きました。

自然を昔に戻す会は、14年前に市西部の17自治会によって発足し、現在は11自治会で運営しています。自分たちの住んでいる場所でできることをやろう！と始まり「昔は秋川の水が豊かだった。水が豊かであるためには山だ。雑山で自然が今よりも豊かだった頃に戻そう」という目的で現在も活動を続けています。これまでに、自治会長や元自治会長が役員として運営してきました。



活動は多彩です。竹炭や竹酢液の製造・販売、コナラやカエデなどの広葉樹の育苗・植樹、森の手入れ、川の水質調査…など。私たちレンジャーも、今までに森の手入れや水質調査などのお手伝いをさせていただきました。今回は、竹の炭焼きです。竹は、人が利用しなくなったこと、繁殖力が強いことなどが原因で山を荒らし、日本全国の里山で問題になっています。戻す会では、竹林を整備しその竹を炭や竹酢液にします。そして、瀬音の湯で販売して得たお金で苗や道具を買い、活動資金にしています。補助金も給料もない全くのボランティアで、あきる野の自然を次世代へつなげています。

私は、皆さんと一緒に冗談をいいながら

楽しく手早く作業することも好きですが、作業の合間のいっぶくの時間がもっとも好きです。竹トンボの作り方、ナタの使い方、カマの研ぎ方、昔の暮らしの話、自然の話…たくさんを教えていただけるからです。皆さんに教えていただくのが私だけではもったいない！今後は、戻す会の皆さんのご協力をいただいて、そんな場づくりもしていきたいと思ひます。

皆さんと一緒に汗を流すと、とても清々しい気持ちになります。それは、人が自然と共生していくためには、汗を流すことが大切なんだと実感できるからだと思ひます。

興味のある方は、環境の森推進係（042-558-8862）まで。

コレンジャーの森づくりが始まりました！



昔道を歩き
森と人のつながりを知る

自分にとってのいい森って、なんだろう？

そんな問いかけを森でコレンジャーにしてみました。歩きやすい森、遊べる森、バーベキューができる森…。レンジャーにも聞きました。多様性のある森、水が豊かな森、手入れをしなくていい森、マザーツリーのある森、人だけではなく動植物も嬉しい森…大人も子どもも様々ですね。コレンジャーの森づくりは、自然との関わりの中で見えてくる変化、森や野生動物の気配、人の居心地の良さに目を向けていきます。

森づくりは、トングワ・ジョレン班、ノコギリ班、トンカチ班の3班に分かれて行いました。自分の使いたい道具を選び、最後まで夢中で作業を行いました。

森づくりをする中で、今はまだ気が付かないことや感じられないこともあると思いますが、大人になってからでも「自分たちがやっていたこと、できること」を思い出す日がくるでしょう。だからこそ、コレンジャーとしての“今”を存分に楽しんで体験してほしい。常に変化していく自然の中で、森も私たちも変化していきたいと思ひます！さあ、どんな森が誕生するのでしょうか？楽しみです。 [加瀬澤]



ヘビのことを
仲間に伝える



トングワ・ジョレン班



ノコギリ班



トンカチ班

季節の動物トピックス

ミゾゴイ、夏の幻のサギ



夏の季節、あきる野市に生息する稀少種は少なくありません。珍しい昆虫から日本に渡って来る鳥類まで、様々な珍しい生き物が確認されています。その中の一種であるミゾゴイという夏鳥が小宮地区内に繁殖していることを確認しました。サギの仲間で、川などの水辺環境の込み合っている雑木林に活動するため、観察しにくい鳥類です。

今年5月末、森の調査を行っていた時に、4つの卵が産卵されている巣を発見しました。影響を与えない様に、十分に距離を置き、親の行動や状況を観察しました。その後、一か月が経ち、卵の孵化やヒナの状況などを確認するために再び現場を訪ねましたが、今回は卵やヒナはおろか、親も確認できませんでした。幻のサギが消えました。恐らく、捕食などの被害を受けたと思われるのですが、痕跡などが確認できなかったため、正確な原因は不明。ミゾゴイの個体は非常に少ないと言われますが、年内にはまだ繁殖のチャンスが残っていますので、次回の成功を祈ります。

梅雨を愛するアオガエルたち

春の季節はもう完全に過ぎた時期になり、雨や高湿度の日々がアオガエルの仲間たちを呼び起こしました。

あきる野で見られる2種類のアオガエル、モリアオガエルとシュレーゲルアオガエルに関しては、「中々区別がつかない」とよく言われますから、今回はこのかわいいカエルたちを紹介したいと思います。

最も広く生息しているのはモリアオガエルです。基本的には、きれいな緑色にカビの様な褐色の斑点がついていますが、全体がこげ茶色の個体も少なくありません。シュレーゲルアオガエルより体がガッチリした感じで、吸盤は比較的大きく、目立ちます。池などの止水系がある場所の地面近くの植物にも泡巣を生み付けますが、木などの

高い枝に産み付けるのが最も普通のパターンです。

一方、シュレーゲルアオガエルは同じようなフレッツシュグリーン色の体で、個体によっては細かな黄色い点がついています。モリアオガエルより小さく、水田などの限られた環境の地面などに泡巣をつくります。

これからの季節はまだ良く見られるカエルの種類ですから、これらの情報をもとに、皆様もよく観察してみてください。[パブロ]

「写真」①モリアオガエルの成体 ②モリアオガエルの泡巣内で成長しているオタマジャクシ ③枝に付いているモリアオガエルの泡巣 ④シュレーゲルアオガエルの成体 ⑤田んぼ沿いで見つけたシュレーゲルアオガエルの泡巣



1



2



3



4



5



あきる野市観光大使